

しゃらりん

34

2019/2



集おういのちのサंगा

ちょっと聞いてこ、お寺で話そ。

大阪教区坊守会との懇談会を開催

組教化推進部

坊守会のみなさまとの意見交換会となりました。

意見交換会に先立ち、坊守会の事業報告など例会から同席させていただいて驚いたのは、こんなに多岐にわたる活動をされていたのか！ということでした。私以外の教区の住職さん方もこれほどの活動内容だとはきつとご存じないのではないのでしょうか。

大阪教区教化委員会／組教化推進部はこれまで各組教化委員長、組人権推進要員、各組同朋の会教導の方々との協議会を重ね、今回は教区



教区事業のご報告

行ったりしている組もあれば、教区の行事に参加することをもって組の活動に充てている組もある

ります。

そうした中で共通したのは、組内の役員人事の難しさや、坊守さん同士の世代間の問題。それから研修会の行き先や学習会の内容と講師選定に、どこも苦勞しておられる様子でした。前者について組教化推進部は全くお役に立てませんが（笑）、後者については教区教化委員会の新体制が推し進めている「出向く教化」が一助となるはずです。しかし、それが十分に周知されていないことが改めて明らかになりました。今後ともしっかりとアピールしていくことが必要です。また、分かり易い、選びやすい情報提供もこれからの課題です。

各組の活動以外にも、社会情勢やお寺の現状と未来についてなど、坊守視点のさまざまなご意見を聞かせていただけて大変有意義なものでした。坊守のみなさまにおかれても住職経由ではなく、直接教区の情報を入手できたのはよい機会になったのではないかと思います。また、各組の報告を聞いている坊守同士で「素晴らしい、詳しいこと教えて」「いいですよ」という言葉が交わされ、情報交換の場になっていたのもよかつ

表紙の写真について



表紙に写っているのは、本山から無償で授与される「誕生児念珠」です。ご門徒さまが赤ちゃんを授かった時、お寺へ「初参式」で来られる際の記念品としてお配りいただけます。教務所に申請用紙を備えております。ぜひご利用ください。

たと思います。特に「それから〇〇でお食事して」「そこどうやって？」「美味しかったですよ」と、その辺の情報にめっちゃ食いついて盛り上がりつつありました（笑）。そんなこんなであつという間に終わった意見交換会でした。みなさんまだまだ言いたいことは尽きなさそうでしたので、またこのような場を設けてはどうかと後日の組教化推進部の会議で話したことです。

（第27組願隨寺・平野圭晋さん）

「是旃陀羅」問題学習会

社会・人権部

2018年12月18日(火)教区教化委員会「社会・人権部」主催の人権学習会が開かれた。内容は2017年にも教区として取り組んだ課題でもある「聖教に現れる差別表現について―「是旃陀羅」問題を中心にして―」を議題とし、この度は、広島県部落解放研究所宗教部会事務局長の小武正教先生(本願寺派西善寺住職)をご講師にお迎えした。

はじめに小武先生は、部落解放研究所が発行している『經典の「旃陀羅」差別を問う』という冊子の「仏教は「対話」の宗教である」という言葉から、「釈尊の言葉は、一方的に発せられた言葉ではなく、目の前に生きる人々との豊かな対話の中から生み出された言葉だ」と紹介された。そして「旃陀羅」問題を問うきっかけは、2012年に三原市で真宗寺院が過去帳を第三者に閲覧させ、それをNHKが放送したことで説明され、その問題を通して差別法名という視点から、自坊である西善寺の

過去帳について語られた。

明治5年に被差別部落寺院が廃寺となり、その地域の真宗寺院がそれぞれに門徒を受け入れることとなった。西善寺も12、14軒を受け入れて現在に至っている。そのような中で1997年に西本願寺の法名調査の折、「新民」の文字がある西善寺の



過去帳に対して、被差別部落の門徒さんは、住職に「書き換えてもいいですよ」と言われた。そこに大きな課題があった。それは過去帳とは一

体誰のものなのか、そこに書かれた法名は一体誰のものなのかということである。今現在の体裁を整える為に「書き換えてもいい」という被差別部落のある門徒さんの了承の言葉だろうが、差別問題は昔どうだったかを問題にしているのではなく、今現在の私の問題として向き合っ

て行かないと、今ここに有るのに、それが見えなくなってしまう。是旃陀羅の問題もまさにその通りであり、「王舎城の悲劇」は教えを伝えるための昔話の架空の物語ではなく、マガタ国において実際にあった出来事であり、それは私たち人間の生身の姿を表している。そういう意味で親鸞聖人はこの観經の課題をととても大切に扱われた。

戦前・戦後にわたって大谷派の融和運動を指導した武内了温師が「旃陀羅こそが救いの正客」だと言われているのは、親鸞聖人の教学がまさに「悪人正機」ということであり、それは「悪

人も救われる」ではなく「悪人こそ救われる」ということが親鸞思想そのものであるからだ。

そして小武先生は、大きな「問い」を出された。観經の旃陀羅という文言を今後どうして行くのか。①このままでは「差別文章」となるので「削除」して、別の言葉に変更する。②不読。読まないようにして、親鸞聖人がどう向き合ったかを明らかにして行く。③たとえば差別文章であっても「經典」の言葉をかえることはできない。これら3つの選択肢が提示されて、班別座談会で話し合った。座談会後にそれぞれの班の発表があった。削除するという選択については、反対意見が多く、不読にして、問題と関わり続けるというのが大半の意見だった。

先生は最後にこうしめくくられた。今私たちが考えなければならなことは、悪人の救済という視点を持つ親鸞聖人の教学を持った私たちの教団が本当にそうなっているか。「現実の差別を肯定」し「救済は観念化」に転落していないか。今一度親鸞聖人の教学を点検しなければならぬ。

(第17組法観寺・廣瀬 俊さん)



出向く教化のご紹介

なりました。

どうして彼らにこの様な判決が出されたのでしょうか？ 逮捕者を出したということで、真宗大谷派（以下、宗門）は顕明師の住職としての活動を調査するために新宮市へ一人の僧侶を派遣しています。この調査の報告書の下書きが派遣された僧侶の寺に残っています。ここから浮かび上がる顕明師は真宗の教えを依り処として真摯に門徒と向き合い、社会と向き合い、自身に向き合う僧侶でした。それにもかかわらず、当時の宗門は判決が出たその日に顕明師の僧籍を剥奪し宗門から追放しました……。

ればできる範囲で応えていきたいと思っています。一人でも多くの人と共に学ぶことを願って活動していますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、人権学習会がなぜ必要なのかについて一言。私たちの宗門は「御同朋」と言いながら、どれほど多くの人を切り捨て排除してきたのでしょうか。例えば、顕明師以外にも部落差別・ハンセン病などの問題に目を背けてきた歴史を持っています。後世を生きる私たちがこのような歴史や先人を批判することは簡単です。しかし私たちが人権学習会で学びたいことは歴史批判・先人批判ではなく、目を背けてきた歴史の中に、また先人が残してくださった課題の中に、私たち自身のあり方を見つめ直すことであると思っています。「共に」と言いながらも人を切り捨て排除してしまう私たち自身のあり様を、私たち「高木顕明師の事績に学ぶ実行委員会」と共に今一度見つめ直してみませんか？

前年度より教区教化事業として新しく「出向く教化」が始まり、「高木顕明師の事績に学ぶ実行委員会」も第11組・第21組・第9組に出向く人権学習会を開催させていただきました。初めての試みで不手際も多く、ご迷惑をおかけした事も多々あったと思いますが、私たち自身にとっても高木顕明師（以下、顕明師）の事績に学ぶ良い機縁となりました。

顕明師は1910（明治43）年のいわゆる、幸徳秋水を首謀者とする「大逆事件」に連座した真宗大谷派の僧侶でした。実際には「大逆事件」とは無関係で、非戦をとえ、差別問題に向き合い、社会的な弱者と共に生きようとされた人です。しかし、こうした活動によって顕明師は当時の国家体制に迎合した和歌山県新宮市の仏教会から排除されていきまし

顕明師の事績に学んでみませんか

社会・人権部

た。代って関わりを深めていったのが、医師で社会主義者との交友関係もあつた大石誠之助、キリスト教の牧師・沖野岩三郎たちでした。そして、大石誠之助と幸徳秋水の繋がりに、新宮市だけで大石を含めて6名もの人が「大逆事件」に連座します。この中の一人が

顕明師でした。なぜ新宮市から6名もの人が「大逆事件」に連座したのでしょうか？ 結局、本人たちもよく分からないまま裁判が進み、6名に死刑、翌日恩赦により4名に対しては無期懲役に減刑されました。顕明師も減刑され無期懲役と



の宗門は判決が出たその日に顕明師の僧籍を剥奪し宗門から追放しました……。さて、「これ以上の詳細は出向く教化で!!」ということになります。組の人権学習会では「大逆事件」の内容からその背景、そして顕明師の事績などを学習します。他に要望があ

（第15組泉勝寺・小松 肇さん）

寺院儀式相談室

大阪教区教化委員会儀式法要部では、寺院・教会における儀式法要全

儀式法要部

般のサポートを「寺院儀式相談室」という事業で開催しております。こ



れはみなさまのご要望に応じてさまざまな講座を開催していただき、そこへ講師を派遣するというものですね。以前は装束作法や葬儀に関するご依頼が多かったのですが、最近では仏花講習会の講師を派遣してほしいという要望が多くなってきました。

「寺院儀式相談室」では、准堂衆会、温雅会、同朋唱和講習会講師の中より講師を選定し、各組や各寺院に出講していただいておりますが、仏花のこととなりますと御本山の仏花を基調としつつも、それぞれの講師によってさまざまな工夫があるようです。

例えば、市販されているさまざまな立花道具の利点や使いにくさの紹介、ホームセンターで購入した代用品を使用する方法、花材の扱いや選定、購入方法などです。

先日は19組正受寺様で仏花講習会が開催されました。組の行事として開催されましたので、住職、坊守さんをはじめ、さまざまな立場の方に多数ご参加をいただきました。当日は講師・吉川知徳師（第4組阿彌陀寺住職）が、東本願寺出版の「グラフィ真宗本廟（東本願寺）の仏花」を教材として使用しながらも、花瓶に立てた心棒に対して、ガムテープでプラスチックコップを留めて受筒の代用にするというユニークな方法、また安全なハサミの使い方などもあわせて説明しながら講習をされました。

していたお花の横に、もう一杯同じお花を立てるという方法をとられて、非常に見やすくわかりやすい講習となりました。

その後、3つの班に分かれて実際に立花していただきました。講師はお花に角度を持たせて前後のボリュームを出すとか、空間を大事にするなどでシルエットを綺麗にするなど、一つひとつの班を回りながら熱心にご指導されていました。ご参加いただいた方からは、「少し心がけるだけでも、こんなに良くなるのですね」、「もつと堅苦しいものだと思います」、「思い込んでいたけど、目の前で工夫の裏側を見せてもらったら、自分もアイディアが浮かんできて楽しいです！」と非常に喜んでおられました。

この度は、吉川知徳講師の場面を紹介させていただきましたが、他の講師もそれぞれに違った工夫や楽しさがあつたことを、開催された方々からお聞きしております。

今後とも、みなさまからいろいろな講座開催のご依頼をいただきますとともに、また新たな講座へのご要望も楽しみにお待ちしております。

（第21組西向寺・新川隆教さん）

NPO法人「縁遊」えんじょい 第6組願教寺

「日本古来の伝統文化から街づくりを」を理念として、お寺発信の地域密着型の多種多様な催事を毎月1

回以上、お寺にて開催しております。地域コミュニティの場としてお寺を活用し、人々の触れあいが減少しつつある状況の一助になればと、2014年にNPO法人「縁遊—えんじょい—」を設立し運営しています。主催がNPOなので、企業や行政へのアプローチがしやすく、もしも催事中に支障が生じてもお寺に迷惑を掛けなくて済みます。宗教法人として協力を申し込むと敬遠される所でも、NPOなら話が進みやすいのが実情です。また、活動の自由度が高く、お寺とのクッション材料になっています。さらに他のお寺に活動が広がりやすい



とも考えています。試みに当NPO法人を使われて、一歩踏み出すきっかけにしてほしいです。1ヶ寺でも多く、地域と共に元気になることを願っています。

催事の種類としては、落語・餅つき・ヨガ・流し素麺・恋活婚活・寺Cafeやさまざまな講座がたくさんあります。「寺Koi」と称するお寺での恋活婚活では、ありがたいことに実際結婚された方もおられます。催事の中でも特に人気なのが「寺市」です。200人から300人の方が野菜や和菓子や雑貨を求めてお越しになります。一番の目玉は新鮮国産野菜95円均一でして、地域のみなさま方への感謝の気持ちを込めて開催しております。

催事のお知らせは、月参りでのチラシの手渡しや地域の回覧板、掲示板、寺報、あらゆるSNS配信を活用しております。開催後は月参りの際に感想を聞き、すぐに改善できるのも利点のひとつです。NPOなので直接布教などはしませんが、仏教

について質問されることや、自坊の法要に興味をもっていただき、徐々に人とお寺を繋ぐかけ橋となつてきています。活動を始めてから、門徒さんとの距離がさらに縮まり、門徒さんでない方にも道で声をかけられるようになりました。

地域の人たちがみんな顔見知りになると、みんなが安心して暮らせる町になるはず。それを日本古来の伝統文化を通じて具現化するために「地域に開かれたお寺づくり」の場が今後さらに増えていけばと。

(第6組願教寺・多藝啓隆さん)



お寺の未来

それぞれの取り組み

初参式く第17組徳因寺

徳因寺では同朋会運動発足時から初参式を誕生会として開催してきました。10年ほど前からは、毎年報恩講の日程中に開催しています。真宗宗歌に始まり、三帰依（パーリ文）を歌います。そして親子で初めてのお焼香をします。住職や役員方より祝辞等を頂きながら、皆で誕生会

祝っています。多いときには8人の赤ちゃんが参加してくれました。泣いたり笑ったり本堂が賑やかになります。

誕生会の中で一番の楽しみは、お母さんや役員方の笑顔に出会うことです。我が子と出遇えた慶びや、可愛い赤ちゃんに触れた喜びが全身からあふれ出た笑顔です。

その事を私の先生に話したときに、「笑顔になるのは当然です。赤ちゃんは仏なんですから」と言われました。

「仏教では赤ちゃんの事を仏子と言います。仏とは、無邪気で計算高くなく、他者を幸せにする利

他を実現し、それでいて気負い（自負心）が無い方を言います。そういう働きからすると赤ちゃんは仏そのものです。濁りがなく真っ白な存在で、人を比べたりしません。そして関わる者に笑顔を与えます。それでいて私がみんなに笑顔を与えたという気負いがありません。仏そのものです。思えば私たち一人ひとりも、元々は仏子だったのです。しかし年を重ねるごとに、邪気だらけで心は濁り、お互いを比べて損か得かと走り回っています。そして利他など無く、自分の利益（自利）にしか関心がありません。挙げ句の果てには自分のお陰でこの場が成り立っているという自負心から、喧嘩や仲違いに終始している現実があります。そこにはかつて仏子だった面影など少しもありません。しかし元々仏子だったからなのか、仏に触れると笑顔を頂くんです。あなたが誕生会で一番の楽しみにしているお母さんや役員の方の笑顔は、仏に出遇えたという感動の笑顔でしょう。毎年続ける誕生会を、私たちを幸せにする仏が誕生した尊い仏事として続けていって下さい」と誕生会の意味を教えて頂きました。

本山から頂く誕生児念珠の入れ物には「遠慶宿縁」（今、遙か遠い昔から護られ続けてきたご縁が整い、あなたと出遇えたことが嬉しくて仕方がありません）と書かれています。それは毎日の忙しさの中で、仏（笑顔）を求めていることすら忘れている私に、生きる力を与える仏事を大切にしていきたいという願いが生まれた感動の言葉のように思います。たくさんのお寺で仏子に会うご縁が整えば素晴らしいと思います。

（第17組徳因寺・稲垣直来さん）





真宗大谷派の本尊は「阿弥陀如来」です。

その「本尊」の持つておられる願いごとを「本願」といい、本願を聞いて救われるのを「信心」といいます。

真宗では願いごとをするのは阿弥陀如来の側であって、人間はその願いを聞く側です。

自分で願い事を作って、仏様にその願いを叶えてくださいと頼んだりはありません。

なぜなら、そんな自分で作った願い事は、欲望の満足を願っているだけだからです。

しかし第十八番目の本願で、阿弥陀如来から教えていただいた、一つの「願い事」だけは例外です。

それは、「欲生我国」（極楽浄土に

生まれたいと欲する）です。

この願い事をしたあとは、修行をします。

「乃至十念」（まあ大体十回ほど、お念仏を称える）です。南インドの龍樹菩薩はこの修行を易行と言われました。

本来仏教はこの世の真実を顕らかにするものです。それを「悟りを開いた」といいます。

それで、お釈迦さんはそのために三つの法を説かれました。それを「三法印」といいます。

これを説く宗教を仏教といい、これを説かない宗教は仏教ではない、という意味です。

まず最初の法は「諸行無常」です。これは神様も仏様も、それから私も「この世を思いどおりにはできない」

という意味です。仏花がそれを表しています。

次の法は「諸法無我」で、この世を客観的に見れば「良いも悪いもないよ」です。お燈明がそれを教えています。

最後の法は「無為涅槃」で、「欲望が無くなって、死んだも同然」という意味で、楽になった状態です。お香がそれを語っています。

初期の仏教は欲望を無くする方法を教えてくださいました。

龍樹菩薩は「無我」の代わりに「空」を教えてくださいました。空とは「無意味」とか「空っぽ」とかいう意味で「良いも悪いもない」世界を表しています。

天親菩薩は無我や空の代わりに「浄土」を教えてくださいました。浄土とはプラス思考やマイナス思考で汚染されていない淨い世界、この世の真実の姿のことです。

最後に阿弥陀如来の「如来」とは良いとか悪いとか好きとか嫌いとかなどの「形容詞」で飾られる以前の「そのまんま」の世界から来た人、そこへ私たちを連れていく人です。

（第7組本照寺・沖野頼信さん）

○2月以降の教区教化事業

ハンセン病家族訴訟に関する公開講座

日時◆2月2日17時半～20時

会場◆難波別院同朋会館講堂

内容◆家族訴訟原告によるお話・弁護士より提訴の背景及び裁判概要についての説明・VTR上映など。

宗祖親鸞聖人学習講座

日時◆2月6日14時～17時

3月20日14時～17時

会場◆難波別院同朋会館講堂

講師◆古田和弘氏

内容◆「高僧和讃に学ぶ」

聖典講座

日時◆2月8日18時～20時

3月6日18時～20時

会場◆天満別院講堂

講師◆小田顕祐氏

内容◆「大乘仏教入門 釋尊を説いた経」全4回

ボランティア公開講座

日時◆2月13日18時～20時

場所◆難波別院同朋会館講堂

講師◆稲場圭信氏

内容◆「災救マップ」～地域と寺



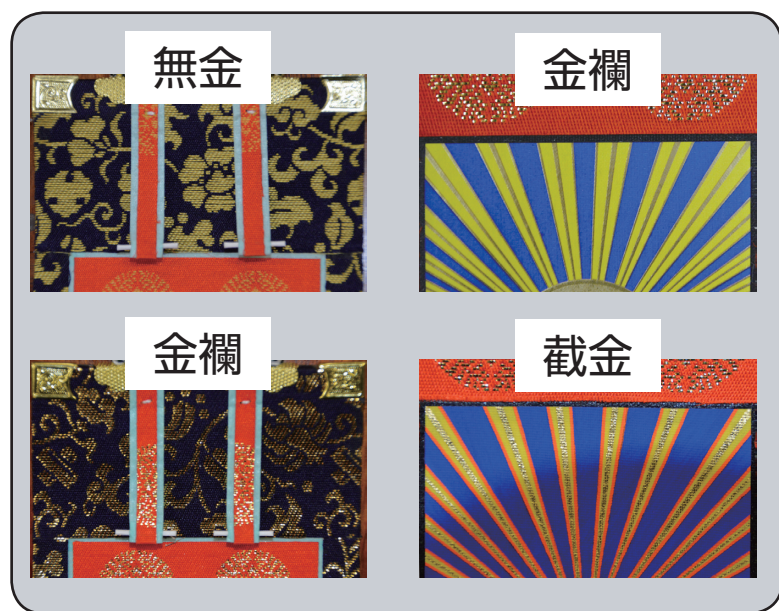
本山授与の ご本尊について

今回は、お内仏（仏壇）にご安置
するご本尊について説明したいと思
います。ご本尊は東本願寺（真宗本
廟）からお受けします。受付窓口は、
京都の東本願寺（真宗本廟）参拝接
待所、または大阪教務所です。お求
めの際は、申請書等は特に必要あり
ませんが、仏壇やご安置する場所の
寸法を事前に十分にご確認ください
い。

お内仏のご本尊には、大別して
「軸型」・「三折型」・「額装型」の三
種類があり、様々なご家庭の住居環
境に対応できるように配慮した仕様
となっております。寸法・種別・授
与礼金が詳細に異なりますので、教

区通信（p91・92）をご参照いた
き、ご門徒のニーズに相応したご本
尊（授与物）をお選びください。

まず、多くのご門徒がお受けされ
るご絵像のご本尊（軸型）について
説明いたします。この「軸型」には
表装の種類が、「金欄表装」と「無
金表装」の2種類があります。金欄
表装は、本紙を表装する裂地と呼ば
れる布地の部分が金糸で織られたも
のです。無金は、裂地部分が黄色の
糸で織られたものです。また、「金



欄表装」のご本尊には金泥塗り
と截金細工の2種類があります。金泥
塗りは、純度の高い金粉を膠の液に
泥状に溶いたもので金色の部分を描
く技法です。截金のご本尊は、後
光・衣・蓮台部分の仕上げに截金細
工を用いています。截金細工とは、
純金箔を竹刀で細く線状に切りだ
し、貼り付けていく伝統技法です。
この技法を用いることでより御本尊
が浮き出て見えるようになります。
そして、あまり知られていない木

仏のご本尊についても説明
します。木仏のご本尊は門
徒用授与物と異なり、本山
から授与されるものではあ
りません。ご門徒の方が木
仏をご所望の際は、仏具店
や有縁の仏師に調製を依頼
し、完成した木仏を本山の
授与物委員会が点検し、認
定をします。点検が完了い
たしますと、ご門首より願
入法名での裏書をいただけ
ます。なお、申請の際は宗
務所と点検期日の調整など
の事務手続きがありますの
で、必ず事前に教務所へご
相談ください。

院のネットワーク

大阪教区全推進員の集い

日時◆2月17日13時半～16時半

会場◆難波別院本堂

講師◆川村妙慶氏

内容◆「同朋の会をひろめよう」
お寺で聞こう お寺で話そう」

原子力問題を考える公開講座

日時◆2月18日18時～20時

会場◆難波別院同朋会館講堂

講師◆白石草氏

南御堂ヒューマンフォーラム「北な
の？南なの？いいえ、私は無国籍
在日コリアンの国籍」

日時◆3月4日18時～20時

会場◆難波別院同朋会館講堂

講師◆丁章氏

門徒女性と坊守のつどい

日時◆3月11日13時半～16時

会場◆難波別院同朋会館講堂

講師◆藤井美和氏

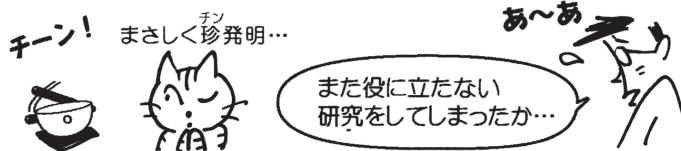
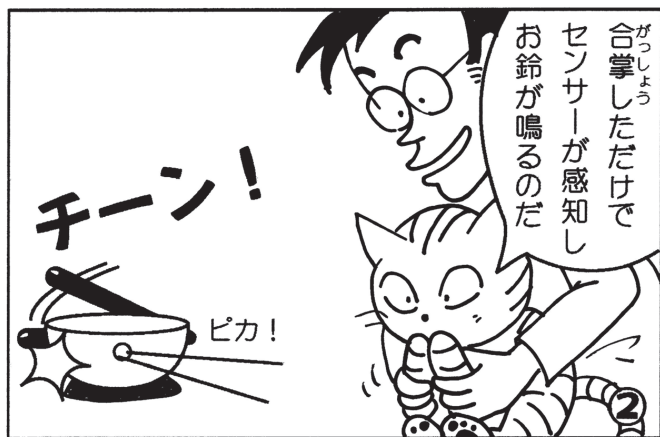
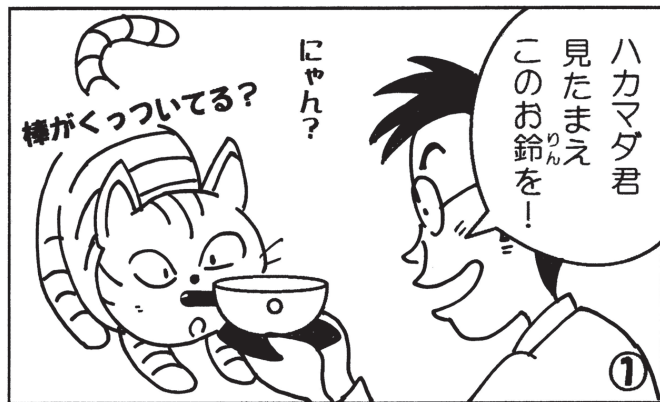
内容◆「いのち」に寄り添う
死生学の視点から」

※以降の予定は全寺院発送な
どでご確認ください。

未来仏事研究所



りん
お鈴の作法



作・廣瀬俊／画・上本賀代子

折々の華

本山の仏華、一般寺院の仏華



立華行ノ花型

御本山の仏華と、ちいちの華のものとでは、ずいぶん違いますねと言われることがよくあります。

そもそも大谷派の仏華は、池坊の立華が基本になっています。上の左図はその中の松の除真の立調図です。

ここにあるように九つの道具（役枝・すなわち真・副・請・正真・見越・流枝・前置・控枝・胴で構成されています。またその他、場合によつては内副や副下、請下、木留、草留など十数種類あるあしらいの小道具を用いることになっています。

ただしこれはあくまで床の間に飾るためのお華であつて、本堂の御内陣という特殊な空間にそのまま置いても、どうしても見えにくく、映えないということになります。

とくに御本山の両堂という広大な空間では、仏華も巨大なものにならざるを得ませんでした。「花小商店」という本山立華の専門業者がおそらく試行錯誤しながら特殊に進化させていったのが、現在の東本願寺の仏華だと言つていいでしょう。実際にご覧になったらおわかりになるように、遠い距離からでも目立つように役枝等を太く派手に強調しています。また菊などの色花も単独では見

えないため、何本も重ねたり束ねたりしてひとつの花材として扱っています。その結果、あれだけの距離を隔てても、圧倒的な存在感を持った仏華が生まれました。

いっぽうで一般寺院の御内陣にはそこまでの空間はありません。もちろんお寺にもありますが、単独でお花を使つてもしっかりと視認できる広さです。ちいちの華はそんな私たちの御堂に適した仏華を立てるべきだと考え、研鑽してきました。お流儀のものと比べると誇張したり省略したりしていますが、それでも木々の枝の姿勢、色花の一輪こそを生かして、池坊立華本来の様式、役枝が形作る空間、季節の草花による色彩を大切にしながら立調しています。

また一般寺院では御本山のように業者を常に雇うわけにはいきません。そんな中、できるだけ楽しく簡単に、またなるべくコストも抑えられるようにと工夫をしています。

どちらが正式とか、正解ということではありません。それぞれの事情にあわせた美しい仏華を立てさせていただくことが、いちばん大切なのではないかと思います。

立華・文 ちいちの華 澤田 見

北前そば高田屋 心齋橋店



今回は、南御堂での法要や研修会の帰りに、門徒さんと気軽に立ち寄れるお店をご紹介します。

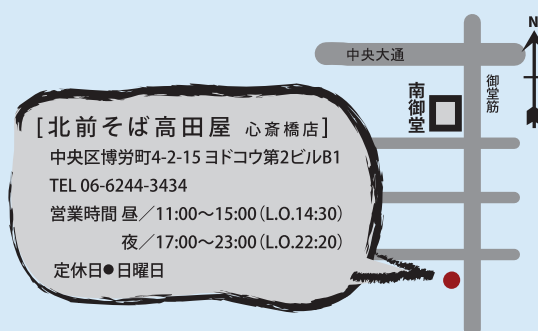


■南御堂周辺のお店紹介

ランチ編

南御堂を南に徒歩 2分。難波神社を過ぎるとすぐ「北前そば高田屋」の入り口が見えます。地下 1階の店内は広くきれいで、掘りごたつ式の個室も充実している点が私のお気に入りです。多くの栄養素が含まれている黒ゴマを練りこんだ自慢のお蕎麦は店内製麺。打ちたて、茹でたて、締めたてにこだわる蕎麦は、冷やして美味し、温めて美味し。素材にこだわったふかふかの天ぷらに、本わさびが 1本ついた上品な「大海老の天ぷらせいろ」1560円はシルバー世代に、また見た目もカラフル

な「彩り野菜のサラダそば」780円は女性に人気です。(上本)



発行日: 2019年 2月 1日

発行所: 真宗大谷派大阪教務所
大阪市中央区久太郎町 4-1-11
TEL06-6251-4720

発行人: 宮浦一郎

編集: 大阪教区教化委員会
広報・出版部
広報コー ディネート実行委員会

<http://www.icho.gr.jp/>

編集 後記

平成最後の『しゃりん34号』をお届けします ◆昭和に生まれ、平成と共に齢を重ねましたがとうとう3つ目の時代を経験することになります ◆昭和の頃には想像もしなかったようなモノがたくさん出現しました。パソコン、スマホ、インターネット……。時代に取り残されないようにしていくのも大変です ◆これから始まる新しい元号の時代には、いったいどんな変化が待っているのでしょうか ◆元号が新しくなっても『しゃりん』をよろしく願います。(北川)

平成最後の『しゃ